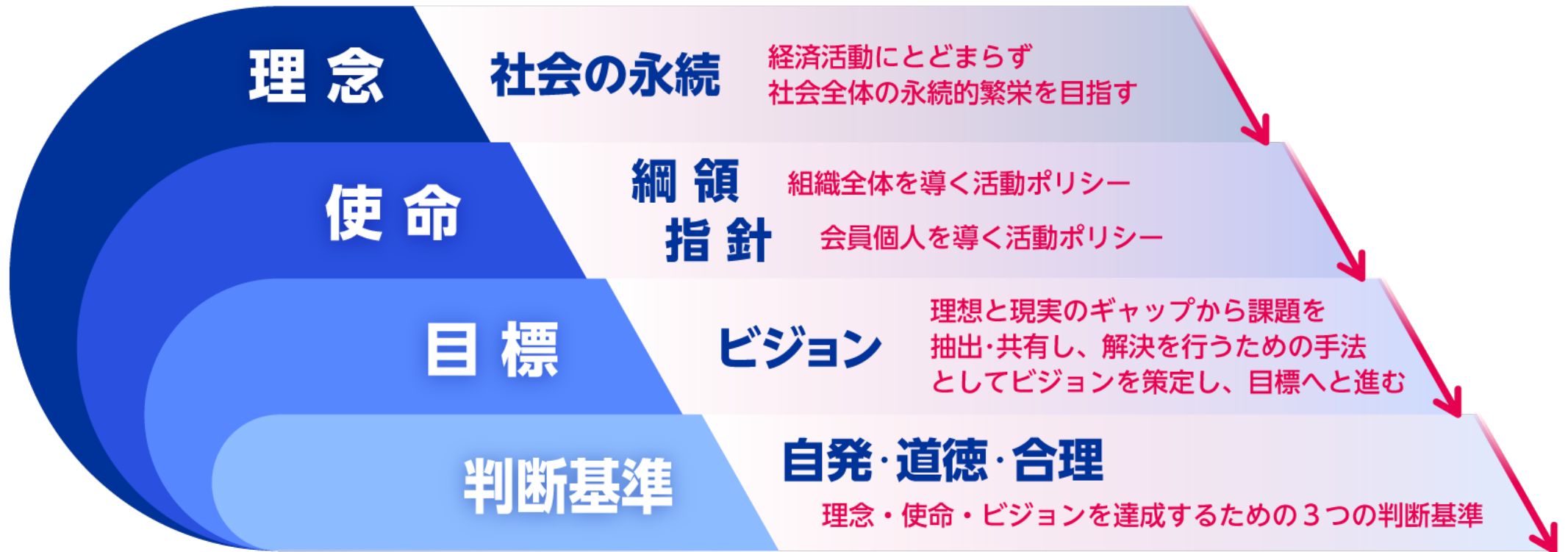


《補足資料》

- 0 1 商工会議所青年部における考え方「思考の順序」
- 0 2 商工会議所青年部 理念「社会の永続」
- 0 3 解説

YEG活動における考え方 「思考の順序」



商工会議所青年部理念

「社会の永続」

私たち商工会議所青年部は
個人並びに企業の健全な成長と豊かな未来を希求し
地域の発展と人々の幸福を持続的に支える力となり
社会の永続的繁栄に貢献する

全ての商工会議所青年部は

単会活動が、個人と企業の健全な成長と、それぞれの地域が未来永劫豊かに続いていく一助になって欲しいと望んでいます。

その活動は、会員それぞれの地域を経済的視点で持続的に支える力となります。

ひとつは地域経済や地域社会が成長していく過程。すなわち地域の発展を支えます。

ふたつめに地域に住まう人々の経済的幸福度向上（雇用、賃金、経済波及）を支えます。

私たちYEGの全国各地での活動や、その活動が及ぼす影響は、個人⇒企業⇒地域⇒日本全体へと繋がる成長サイクルを形成し、日本全体が、活気溢れ人々が豊かに生活を送り栄える（繁栄）ことに貢献する事となります。

これらの貢献への流れは、「社会の永続」と呼ぶ、私たち商工会議所青年部の普遍的な概念、すなわち理念となります。

※「社会」とは、企業、地域、それぞれに多様に存在する集合体を一括して表現しています。

理念形成委員会 商工会議所青年部調査報告書

はじめに

令和6年度理念形成委員会では、本年度日本YEG運営方針から我々の活動の原拠である「綱領・指針」を深く見つめ、組織としての在り方や価値を考え、時代に適合した意義や位置付けを思料する活動を行ってまいりました。

そして商工会議所青年部設立から現在に至るまでの歴史的な発展、「綱領・指針」の策定プロセスと過程からその重要性を理解し、これからのYEGに必要な「組織としての共通理念」を模索して、全国のYEG会員の皆さまへ発信してまいりました。

第1章 概要

- 第1節 活動目的・計画
- 第2節 活動スケジュール

第2章 現代を調査・検証

- 第1節 「綱領・指針」の調査
- 第2節 YEG活動とは！YEG活動に必要なものとは？
- 第3節 現在のYEGを調査
- 第4節 検証まとめ

第3章 歴史を調査・検証

- 第1節 YEGの発足と全国組織化の経緯
- 第2節 YEG連合会の発足と初期の活動
- 第3節 綱領・指針の策定と意義
- 第4節 綱領・指針策定後の展開
- 第5節 綱領・指針 策定経緯 策定者の思い 策定当時の経済状況
- 第6節 検証まとめ

第4章 仮説の構築

- 第1節 過去・現在・未来の検証
- 第2節 本質のYEG活動
- 第3節 YEGの在り方
- 第4節 経営者の成長とは
- 第5節 道徳経済合一
- 第6節 理念の必要性
- 第7節 YEG活動における組織の共通理念
- 第8節 YEG活動の考え方「思考の順序」
- 第9節 「思考の順序」によるYEG組織の永続化
- 第10節 判断基準の詳細について

第5章 まとめ

参考資料

- ・令和5年度次年度理事研修・次年度会長研修会アンケート結果
- ・消滅可能性自治体マップ
- ・全国人口推移・出生数について
- ・過去の各種宣言
- ・翔生（第六号）「青年部活動への提言」
「青年部活動の基本的な考え方」

01 活動目的と活動計画

活動目的

商工会議所青年部（以下YEG）という組織における全ての会員が組織理念を正しく理解し、それぞれが抱える課題解決に対して正しい判断を行えるよう、理念検証から組織における活動意義への理解を促進していくことを目的にします。

活動計画

- ① 組織としての在り方、意味を考えつつ、時代に適合した意義や位置付けを思料する活動を行うこと
 - ② PMVV(理念・ミッション・ビジョン・バリュー)を明確に定義づけること
- 以上2点を軸にこれまで事業計画を構築してまいりました。

02 活動スケジュール

- ・「綱領・指針」の理解についての調査。 (第41回全国会長研修会 高知会議)
- ・「綱領・指針」の重要性を全国の会長へ発信。 (春の全国会長会議にて)
- ・全国の会員から現在のYEGに対しての思い、考えをアンケートにて収集。 (理念形成アンケート)
- ・「綱領・指針」策定当時の背景・目的を策定者からインタビュー。 (策定者インタビュー)
- ・代表理事会議への活動報告
- ・本質のYEG活動の提案。 (理念形成スタートアップセミナー)
- ・各ブロック大会にて活動報告と組織を活性化する「思考の順序」の提案。 (会長会議 研修事業)
- ・全国会長研修会にてYEGフォーラムを開催。 (会長研修会 研修事業)
- ・活動表記（思考の順序）の提案
- ・年間活動まとめ報告・活動表記の宣言。 (第44回全国大会 FUKUOKAくるめ大会)

01 「綱領・指針」の調査

80%の会員が「綱領・指針」を理解してYEG活動を行っていない！

第41回全国会長研修会高知会議にて全国の単会会長から「綱領・指針」を正しく理解してYEG活動を行っているか調査を行った結果、80%の参加者が正しく理解することなくYEG活動を行っていることが分かりました。

検証結果から「綱領・指針」についての深堀が必要と考えました。

※参考資料1

02 YEGの活動とは？活動に必要なものとは？

「綱領」の理解が組織を活性化！

春の全国会長会議にて単会会長に向けて「綱領」を正しく理解し、責任と自覚の上で活動すれば組織が活性化することを目的に研修事業を行いました。

「自単会の思い描く未来の姿は自企業をベースに地域の持続的な発展を目指す姿である。」「組織活性化のためには個人の資質向上、自企業の発展・地域の発展、政策提言が必要である。」「組織が活性化するためには綱領にある地域の経済的発展の支えになることが重要である。」と多くの声が聞かれました。

03 現在のYEGを調査

春の全国会長会議研修事業を踏まえて、全国のYEG会員の皆さまへ現在のYEGに対して何を思い、何を求めているのか声を聞くために理念形成アンケートを行いました。

04 検証まとめ

春の全国会長会議、理念形成アンケートから会員育成、会員増強、出席率向上、会員の意識改革など様々な課題に対する声が上がりました。

現代社会における私たちの取り巻く環境は不安定な経済情勢、人口減少、少子高齢化、単会・地域の消滅など問題は山積みです。

多くの会員の皆さんの声から組織について改めて考える時期に来ていると考えられます。

それでは私たちYEGにとって、YEG活動の本質とは何かを考えると、それは私たちの活動の根源である「綱領・指針」に基づいた活動であると言えます。「綱領・指針」を正しく理解し、適切に解釈した上で、責任と自覚を持って取り組む活動こそが、YEG活動の本質です。そして、「綱領・指針」に基づいた活動を通じて、組織の一体感を高め、活動の質を向上させる役割を果たします。

01 商工会議所青年部の派生と全国組織化の経緯

商工会議所青年部の派生（昭和54年／1979年）

昭和54年（1979年）頃、各地で青年部が誕生する中、先進青年部から「青年部の全国組織化」と「全国大会開催」を求める要請が日本商工会議所（日商）に対して提出されました。これを受け、日商は地域ブロックごとに青年部運営研究会を開催し、青年部の目的やあり方を確認する場を設けました。

商工会議所青年部第1回全国大会 準備委員会の発足（昭和56年／1981年）

昭和56年（1981年）11月11日、群馬県前橋市において「行動する商工会議所に若い力を」というスローガンのもと、商工会議所青年部第1回全国大会が開催され、「全国組織化を図れ」という提案が全会一致で採択されました。全国商工会議所青年部の設立に向けて、準備委員会が発足しました。この時期は日本経済が高度成長期を経て安定成長期に入った頃で、若手経済人の役割が注目されていました。

商工会議所青年部第2回全国大会（昭和57年／1982年）

昭和57年（1982年）10月29日、富山県高岡市において第2回全国大会が開催されました。この大会では「若い力を結集し、商工会議所に新たな飛躍を」というスローガンのもと、全国商工会議所青年部連合会の結成が行われ、連合会の規約や事業計画、予算が審議されました。

02 全国商工会議所青年部連合会の発足と初期の活動

全国商工会議所青年部連合会の発足（昭和58年／1983年）

昭和58年（1983年）4月1日、全国商工会議所青年部連合会が正式に発足しました。同年には組織の拡充や会員の資質向上のためのブロック別運営研究会や第3回全国大会が開催され、第1回中央研修会も行われました。組織の拡充や会員の資質向上のための活動が本格的に始まりました。

青年部の歌「伸びゆく大地」（昭和61年／1986年）

昭和61年（1986年）、第6回全国大会（福島大会）で、青年部の歌「伸びゆく大地」が披露されました。この歌は、全国公募で選ばれた歌詞と、石井欽氏による作曲で作られ、青年部の理念や志を音楽で表現したもので、青年部の連帯意識を高めました。

コーポレートアイデンティティ「YEG」の誕生（平成2年／1990年）

第10回全国大会（静岡県浜松市）での全国大会記念式典に先立ち開催されました、第13回通常会員総会において、商工会議所青年部CI（コーポレートアイデンティティ）が提案、発表され、慎重審議の上、愛称「YEG」などが決定されました。

03 「綱領・指針」の策定と意義

「綱領・指針」策定の背景（昭和63年／1988年）

社会経済の変化に対応するため、青年部が21世紀の主役となるべく、統一した活動の基準を持つ必要がありました。青年部の今後の活動方向性を明確にするため、全国単会アンケートが実施されました。

「綱領・指針」の策定プロセス（昭和63年／1988年）

アンケート調査を基に、特別委員会で綱領と指針の策定が進められました。女性会や日本青年会議所の例を参考に、経済活動に重きを置いた内容となり、会員全員が理解できるよう平易な言葉で表現されました。

「綱領・指針」の内容（昭和63年／1988年）

「綱領」組織としての活動ポリシー：商工会議所青年部は地域社会の発展を支える商工会議所活動の一翼を担い、地域経済の発展と新しい文化的創造をもって、住みよい郷土づくりに貢献する。

「指針」個人としての活動ポリシー：青年部員として、地域を支える経済人として研鑽を積み、国際的な視野を持ち、地域の発展に創意工夫と情熱を傾けることが必要です。

04 「綱領・指針」策定後の展開

「綱領・指針」の浸透とYEG宣言（山形宣言）（平成4年／1992年）

「綱領・指針」策定後、その浸透に課題があり、2年間の議論の末、より簡潔で分かりやすい表現に改定されました。平成4年（1992年）、YEG宣言が第12回全国大会山形の地にて採択され、YEG活動の方向性が広く発信されました。これにより、YEGの活動ポリシー（方針）がより広く発信されるようになりました。

YEG宣言の改定（平成25年／2013年）

平成25年（2013年）、YEG宣言が改定され、新しいYEG宣言として採択されました。この宣言により、YEGとして地域と日本を愛し、地域社会と経済に積極的に貢献する姿勢が明確にされました。これは、愛国心を持って、時代の変化に合わせて宣言の内容を更新する試みでした。

05 策定者の想い

「綱領・指針」策定者インタビュー

昭和63年度 全国商工会議所青年部連合会副会長及び特別委員会委員長

綱領・指針の策定者 綿谷 正行氏

活動の「理念」を確立するために「綱領」を策定し、また、自己修練を行うための行動基準として「指針」を策定しました。

当時は親会からの期待が低かった。

そこで経営者が集う会として、青年部が挑戦できる団体になることを第一に考え、商工会議所らしく地域に何ができるのか？何を求められているのかを考えた。

考え方としては、「着眼大局」＝物事の全体を把握して本質を捉えること。

「着手小局」＝目の前の小さなことから実践していく視点にいたった。

綱領・指針の内容

綱領：組織としての活動ポリシー【青年部の目指す方向性を示す】

指針：個人としての活動ポリシー【会員一人ひとりが実践すべき行動を示す】

06 検証まとめ

「綱領・指針」の策定により、青年部の活動に明確な方向性が与えられました。

これは、組織の一体感を高め、活動の質を向上させるだけでなく、社会における青年部の存在意義を明確にする役割も果たしています。

「綱領・指針」は、青年部の活動の根幹をなすものであり、今後も地域経済社会の継続的な発展に向けて重要な役割を果たしていくと考えられます。

また、時代の変化に対応しつつ、組織並びに会員個人の核となる価値観を維持する「綱領・指針」となっています。

そしてYEG活動は、商工会議所青年部の全国組織化を経て、「綱領・指針」を基盤に進化を続けてきました。

これからも地域社会における青年経済人としての役割を担い、地域と日本の発展に貢献することが期待されます。

01 過去・現在・未来の検証

地域に対してYEGは何が出来るのか？

人・物が潤沢にあった36年前に策定された「綱領・指針」は時代に沿ったものになっているか？

現在、地域が抱える問題には、人口減少による生活利便性の低下、高齢化による労働力不足、経済縮小による働き口の減少、経営者の後継者不足、地方から大都市部への人口流出と、経済の衰退に歯止めが利かない状態が続いています。

2050年には121単会の地域を含む744の市町村が「消滅可能性自治体」とされています。

このような状況に私たちは現在置かれている中で、地域や単会の衰退は他人事ではありません。

※参考資料2

02 YEG活動の本質

YEGに必要な活動とは何か？ 次代に必要なYEG活動とは何か？ 地域課題を解決するためのYEG活動とは何か？

YEGは自企業の商いを発展させ経済の視点から地域を発展させる責務のもと活動する経済を主体とした団体です。

「綱領・指針」をしっかりと理解し、理想の姿を想像し理念を掲げることから、ビジョン（課題解決）を策定、課題解決のための行動の検証を行い、次年度へと引き継いでいく。毎年継続的に繰り返すことが組織の活性化へ繋がる。

未来のYEGにおける理想像について共に考え、地域を担う青年経済人として価値ある事業を生み出し、人と企業、地域をつなぎ、自身の成長と共に、持続可能な社会の実現に向けて自発的に行動してもらおう活動こそが私たちが理想とするYEG活動である。

03 YEGの在り方

私たちYEGが地域に存在する理由とは？ これから未来に向けてのYEGの在り方とは？

各地商工会議所からの要請にてされ時代の変化と共にその在り方も変化してきました。その変化とは、交流と研鑽を通じて、企業家精神をより一層高めること。

YEGの活動の柱として、交流・研鑽・地域貢献・政策提言…等があげられますがそのどれもが、個人の資質向上、自企業の発展へとつながり、ひいては

「活力ある地域経済社会」を実現することこそが私たちYEGが地域に存在する理由と考えました。

04 経営者の成長とは

継続的に成長する経営者は、組織を効果的に率い、ステークホルダーと協働しながら商品やサービスを創出する能力を高める。

YEG活動は、地域や社会が抱える課題の解決に寄与し、安定した経済基盤（収益）を築きます。安定した経済基盤は、企業の持続的な成長を支えるだけでなく、地域経済の活性化（雇用・賃金・経済波及）にも貢献します。地域経済の活性化は、経営者としての社会的責任を果たし、地域社会の持続可能な発展を促進します。そして最終的に、社会の永続を実現するための揺るぎない基盤となると考えます。

05 道徳経済合一

私たちは、企業の発展だけを考えていればいいのか？

私たちの活動は自企業の利益追求ではなく、家族や単会、地域の経済的発展など自分以外のために日々活動を行っています。

誰が為に。

地域社会の一員としての責任を果たし、地域と共に持続可能な未来を築くことが必要です。渋沢栄一翁の「道徳経済合一」の教えは、道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言であると説いています。自分さえよければ良いという考えでは、経済の発展はありません。道徳心を持ち、企業の発展を目指す。私たち企業は地域の公共財であり、企業の発展がひいては地域の発展につながります。

06 理念の必要性

未来を描き 本質を追求し 共に創っていくことが必要である！

目指すべき地域の姿を実現するためには、会員一人ひとりがバラバラな思いの中で活動をするのではなく、同じ方向を向きYEG活動をすることが必要です。そのためにはYEG活動における組織の共通理念を掲げることが必要と考えます。

07 YEG活動における組織の共通理念

YEGが目指すべき地域の姿

私たちは、地域社会の一員としての責任を自覚し、地域と共に持続可能な未来を築くことを目指しています。私たち企業は地域の公共財であり、企業の発展が地域の発展へとつながることを念頭に置き、「活力ある地域経済社会」の実現に向けてYEG活動に取り組んでまいります！
そして持続可能な未来＝「活力ある地域経済社会」が永続的に続くことこそが私たちYEGが目指すべき地域の姿であると考え、YEG活動における最上位概念である理念を「**社会の永続**」と掲げさせていただきます。

理念「社会の永続」とは？

YEGが掲げる「社会の永続」という理念は、一般的な経済活動を超えて、地域社会が持続的に発展し、未来の世代に豊かな社会を引き継いでいくという壮大な方向性を示しています。

なぜ「社会の永続」なのか？

経済活動と社会貢献の融合

YEGは、経済活動を軸にしながら、地域社会の課題解決や人々の生活の質向上にも積極的に取り組むことで、持続可能な社会の実現を目指しています。

未来への責任

現在の経済活動が、将来の世代にどのような影響を与えるかを意識し、環境問題や社会問題にも目を向け、持続可能な社会を築くための責任を果たそうとしています。

地域社会の活性化

地域経済の活性化だけでなく、地域コミュニティの活性化、文化の継承など、多角的な視点から地域社会の持続可能な発展を図ります。

08 商工会議所青年部活動における考え方「思考の順序」

「理念」を達成するため組織としてどのような活動をすれば実現できるのか？

地域が消滅することなく、企業、単会、故郷（こきょう）が末永く続いてほしい。
それが私たちYEGとしての地域に対する想いであり、願いです。
会員ひとり一人がバラバラな思いの中で活動をしているのは「理念」を達成することは出来ません。
それでは達成するためにはどうすれば良いのか？

理念を達成することは組織が共に歩む長い道のりです。
組織としてYEG活動をするためには本質のYEG活動を行っていく上での「考え方」「進め方」が必要と考え、活動表記を委員会内で提案する必要があると考えます。

どのような活動表記なら全国の会員の皆さんへ伝わるのか？

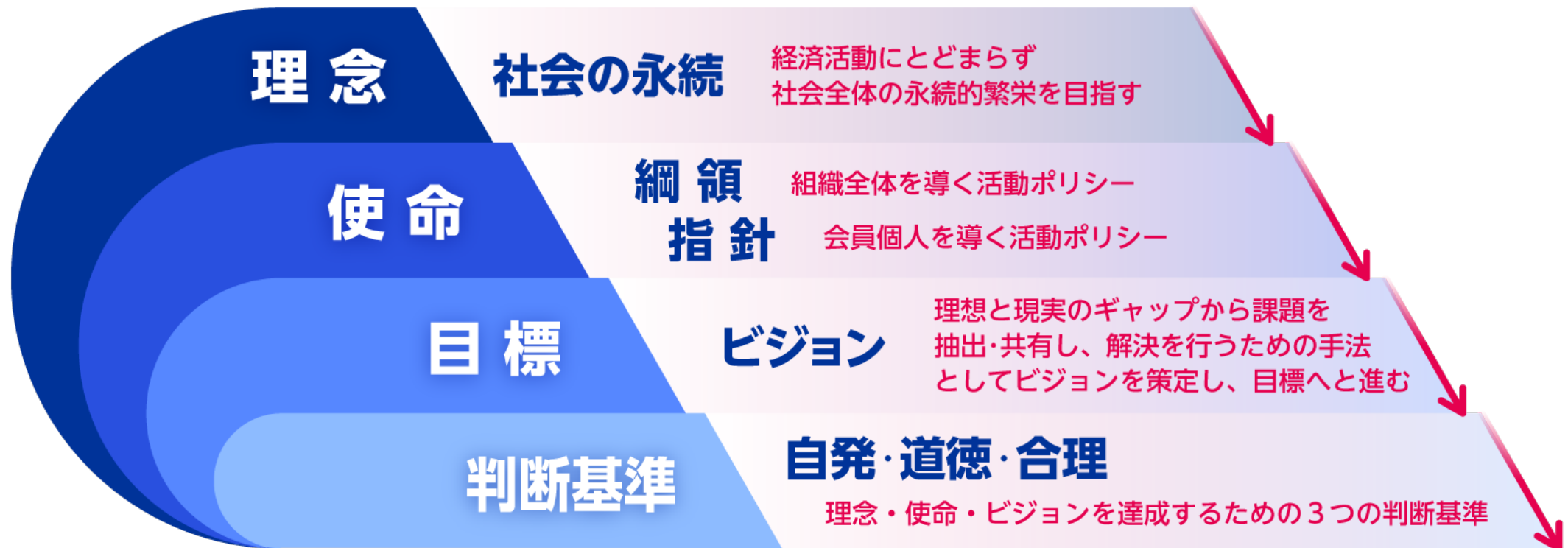
委員会内での理念体系の議論では
Pは「パーパス＝存在意義」「フィロソフィ＝理念」？
PMVV MVV？ ○△□？
委員会メンバーによって理念体系に対する解釈、言葉の定義がまちまちでした。

委員会として、理念体系に基づいてPMVVを明確に定義することが難しく、それを全国の会員に発信しても同様の反応を得るのではないかと考えました。
委員会内での議論を踏まえ理念体系という表記で発信するのではなく

**商工会議所青年部理念体系 = 「思考の順序」
= 「YEG活動における考え方」**

と定義づけて「YEG活動の進め方」とともに提案をしました。

YEG活動における考え方 「思考の順序」



08 商工会議所青年部活動における考え方「思考の順序」

1 理念（社会の永続）

YEGの共通理念である「社会の永続」。

YEGの活動が単なる経済活動にとどまらず、社会全体の永続的繁栄を目指していることを表しています。

《解説》

「社会の永続」は、青年経済人として地域社会の課題解決や経済好循環創出に積極的に取り組むことで、現状維持ではなく、新たな経済活動と社会貢献の融合へと繋がり、持続可能な地域社会を構築し、次世代へ継ぎ紡いでいくという壮大な方向性を示しています。

この理念は、渋沢栄一翁の「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ」「仮に一個人のみ大富豪になっても、社会の多数がために貧困に陥るような事業であったらば、どんなものであろうか。如何にその人が富を積んでも、その幸福は継続されないではないか」という言葉に表される「道徳と経済の合一」の思想を具現化したものです。私たちYEGの活動は、経営者のため、企業のため、地域のため、という活動サイクルであり、この活動が、ひいては社会（日本）の永続へと繋がっていきます。

2 使命（綱領・指針）

綱領と指針は、それぞれ組織と個人の使命を明確にしています。これらは、YEGの活動の核心部分を形成し、会員の行動指針となっています。

時代に合わせて柔軟に解釈しながらも、基本的な価値観は維持されています。

《解説》

令和6年度日本YEGは、YEG活動を思料する中、「綱領」は組織全体を導く活動ポリシーであり、「指針」は会員個人を導く活動ポリシーと定義しました。この使命は、私たちが「どのように活動するのか」という問いへの答えであり、日々の行動計画の骨格となると考えます。

08 商工会議所青年部活動における考え方「思考の順序」

3 目標（ビジョン）

YEG活動における課題解決のための手法（目標）です。

YEGの理想の姿と現状の姿とのギャップから達成する姿に近づくために課題抽出を行い、課題を共有し解決を行うためのビジョンを策定していきます。

《解説》

理念と使命を理解した単会は理想像を掲げます。

ビジョンは理想像へと進んでいく過程において、理想と現実のギャップから課題を抽出・共有し、解決するための手法です。

YEG活動に課題を感じた際は、ビジョンを掲げ課題解決に取り組み目標へと進むことが重要であると考えます。

4 判断基準（自発・道徳・合理） ※それぞれの詳細解説は10にて

「判断基準」とは、私たちの活動の基準となる「理念」「使命」「ビジョン」から「行動するとき」「事業計画するとき」「事業検証・報告するとき」「事業を引き継ぐとき」に組織・会員一人ひとりが互いに大事にする考え方。

《解説》

YEGの歴史の中には、経済や社会の変化と共に、様々な判断を行い、価値ある活動へと変化してきた歴史がありました。

その判断の積み重ねは、思考の積み重ねであり、いつの時代も熱ある者に寄り添ってきた思考です。

私たちYEGは、「自発・道徳・合理」の三つの判断基準を基に、理念の達成に向け、活動してまいります。

09 「思考の順序」による組織の永続化

理念である「社会の永続」を達成するためには
どのような行動をすれば良いのか？

私たちYEGの使命は「綱領・指針」に全てが記載されています。
綱領は青年部の目指す方向性を示すものです。
「地域の活性化」「経済の発展」「社会への貢献」などの要素が
盛り込まれています。

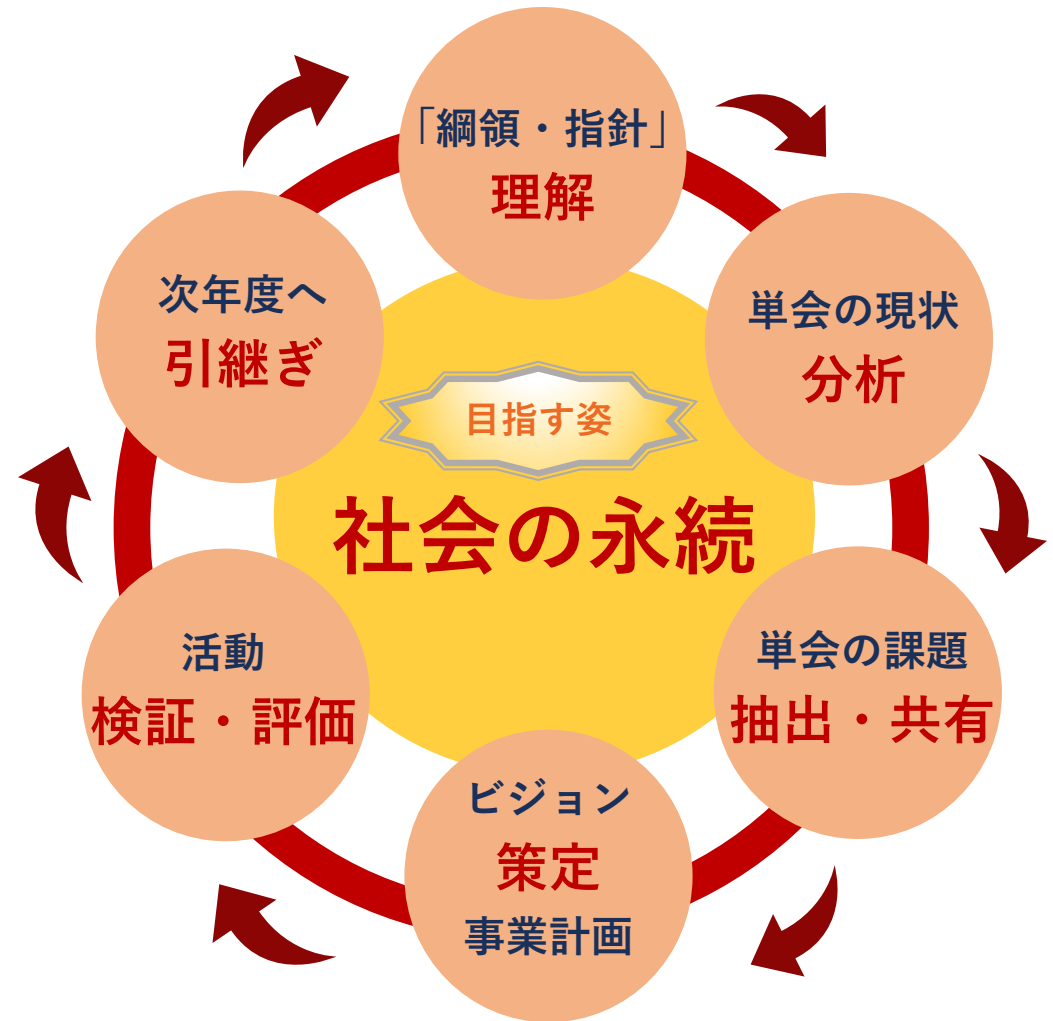
指針には、会員一人ひとりが実践すべきことが示されています。
「自己研鑽」「リーダーシップの発揮」「社会的責任の遂行」などが
含まれ、青年経済人としての心構えを示しています。

まずは「綱領と指針」を正しく理解をし、現在の単会の現状を分析を行い、
目指す姿とのギャップから単会の課題ととらえ、単会内で可視化して
共有していく。

課題解決のための手法としてビジョンの策定を行い、一年の活動を
持続可能であるかという目線を持って検証・評価を行い次年度へ
引き継いでいく。

この一連の流れが、「社会の永続」を達成するための
「YEG活動の進め方」と考えます。

YEG活動の進め方



10 判断基準の詳細について

「理念・使命・ビジョン」を実現するには
組織がともに歩む長い道のり。

理念を達成するためには長い道のりを苦しい時も楽しい時も迷うことなく
様々な状況下で組織・会員が適切な判断を下し行動することが必要ではないかと考えます。

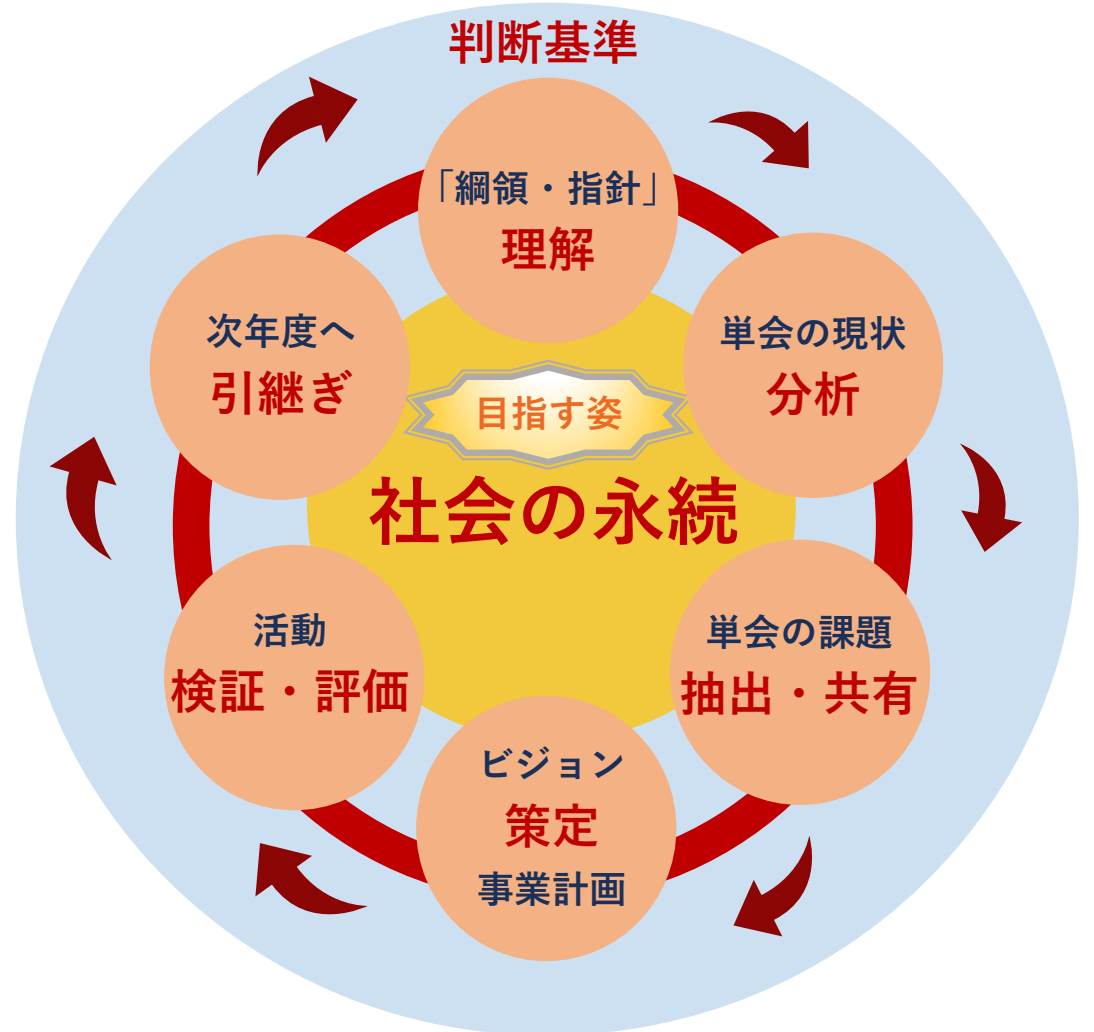
「判断基準」を私たちの活動の歴史から読み解き

- ① 事業計画するとき
- ② 事業検証・評価するとき
- ③ 事業を引き継ぐとき

に組織・会員が互いに大事にする考え方。

そして「判断基準」は自分たちらしさを忘れることなく、
時代の変化に対応し、終わりなく常に追求するものであると考えます。

「思考の順序」から導き出される判断基準



10 判断基準の詳細について

自発

「綱領・指針」策定時に行われたアンケート調査にて、すべての項目に「青年部は意欲的であるべき」との答えがありました。

※翔生（第六号）「青年部活動への提言」より

意欲的とはすなわち「自ら進んで積極的に行動する」という「自発」へと繋がります。

YEGとして取りまとめられた意識の原点として、また、現代社会における経営者資質に必須項目として求められるこの言葉は、青年部活動における必要な判断基準と考えます。

【先導者としての自覚】

- ・新しい取り組みを率先して提案し、会員を巻き込む姿勢が必要です。
- ・地域社会の課題解決にあたり、経済的視点から地域を牽引する活動が必要です。

【変化への対応】

- ・社会情勢や経済状況の変化を常に意識し、青年部活動の内容を柔軟に変化させていくことです。
- ・経済や社会の流れに対応し、新しい活動に取り組むことが必要です。

【変革】

- ・既存の枠にとらわれず、常に新しい価値を創造していくことです。
- ・組織活性化のために、次代を意識した革新的な取り組みを積極的に行うことが必要です。

10 判断基準の詳細について

道徳

「利を図るということと、仁義道徳たる所の道理を重んずるという事は、並び立って相異ならん程度において始めて国家は健全に発達し、個人はおのそのそのよろしきを得て富んで行く」という言葉があります。

※出典：渋沢栄一『論語と算盤』（国書刊行会 1985年）

これは東京商工会議所の初代会頭である渋沢栄一翁の言葉です。

この言葉は、利己主義によらない経済活動と、経済活動の社会への還元を実践することで社会を豊かにし、結果として企業も発展していくことになる。という文章です。社会の永続を理念と考える私たちにとって「道徳を持った経済活動」は、青年部活動における必要な判断基準と考えます。

【社会的責任】

- ・地域社会への貢献、環境問題への取り組みなど、青年経済人としての責任を果たすことが必要です。
- ・社会全体の持続可能な発展に貢献する活動に取り組むことが必要です。

【調和】

- ・会員同士、そして地域住民との間に良好な関係を築き、協力し合うことが必要です。
- ・異なる価値観を持つ人々との共存を図り、多様な意見を尊重する姿勢が必要です。

【多様性の活用】

- ・会員一人ひとりの個性や強みを活かし、多様な視点から組織における課題解決に組織全体で取り組むことが必要です。
- ・多様な背景を持つ人々との交流を深め、視野を広げる機会を増やすことが必要です。

10 判断基準の詳細について

合理

「和而不同（わじふどう）」これは、孔子の論語に記載されており、自分の考えをしっかりと持ちながら、周りの人と同意のもとに良好な関係を築く。という意味です。

※翔生（第六号）「青年部活動の基本的な考え方」より

この言葉は、青年部活動の基本的な考え方として、「綱領・指針」策定時に語られた言葉です。

全国それぞれの地域にそれぞれの商工会議所青年部活動があります。

多様な活動に寄り添うべく「合理に基づく（道理や倫理にかなっている）」ことは、商工会議所青年部活動における必要な判断基準と考えます。

【俯瞰する視点】

- ・青年部活動全体を俯瞰し、中期的な視点で活動計画を立てることが必要です。
- ・個人活動だけでなく、組織全体の状況を把握し活動の意義を再確認することが必要です。

【包括した検証】

- ・青年部活動の効果を客観的に評価し、活動における改善点を見つけることが必要です。
- ・データに基づいた分析と検証を行い、より効果的な活動に繋げるための努力が必要です。

【リスク管理】

- ・可能性のあるリスクを事前に予測し、適切な対策を講じることが必要です。
- ・法的な問題や安全面への配慮など、リスク管理の意識を高めることが必要です。

第5章 まとめ

私たち理念形成委員会は、令和6年度日本YEG運営方針から我々の活動の原拠である「綱領・指針」を深く見つめ、組織としての在り方や価値を考え、時代に適合した意義や位置付けを思料する活動を行って参りました。

商工会議所青年部の派生、全国商工会議所青年部連合会設立から現在に至るまでの歴史的な発展、「綱領・指針」の策定経緯と過程からその重要性を理解し、これからのYEGに必要な「組織としての共通理念」を模索して、全国のYEG会員の皆さまへ発信して参りました。

YEGという存在は、交流と研鑽を通じて、個人の資質向上が自企業の成長へとつながり、その活動から「活力ある地域経済社会の実現」を達成するための一助となっています。

現代社会においては、自企業の発展だけを考えるのではなく、地域社会の一員としての責任を果たし、地域と共に持続可能な未来を築くことが必要です。

そのためには、会員一人ひとりが個々の思いの中で活動をするのではなく、同じ方向を向き活動をするため、共通の理念を掲げることが必要と考えました。

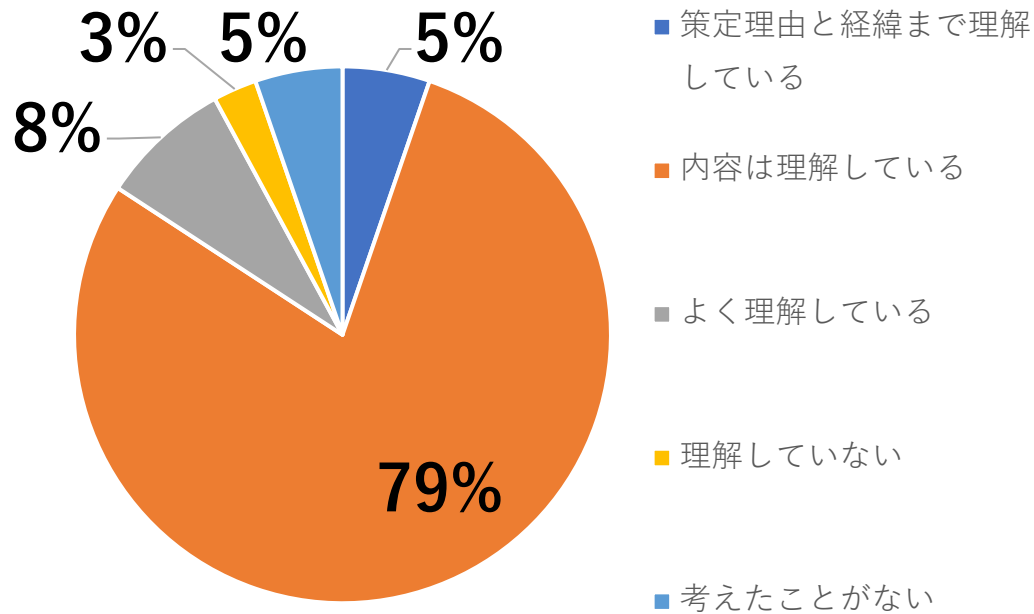
以上の流れを踏まえ、商工会議所青年部理念「社会の永続」を宣言させていただきます。

この理念が全国のYEG会員への持続可能な成長への意識付けとなり、組織活性化の一助になることを希求いたします。

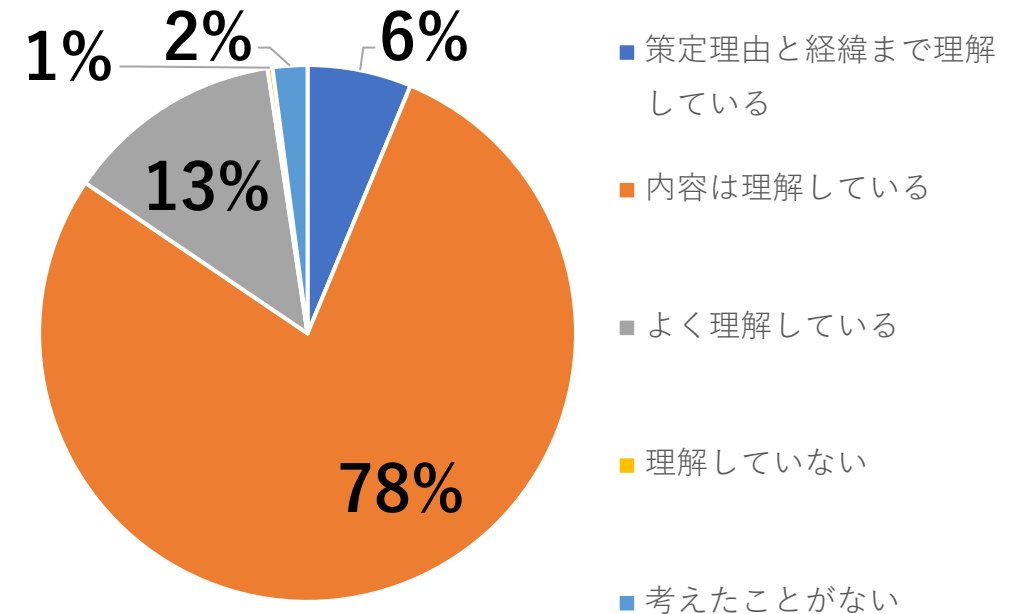
《参考資料》

令和5年度次年度理事研修・次年度会長研修会アンケート結果

令和5年【理念形成】アンケート結果 Q7. 「綱領」「指針」の趣旨を理解していますか？



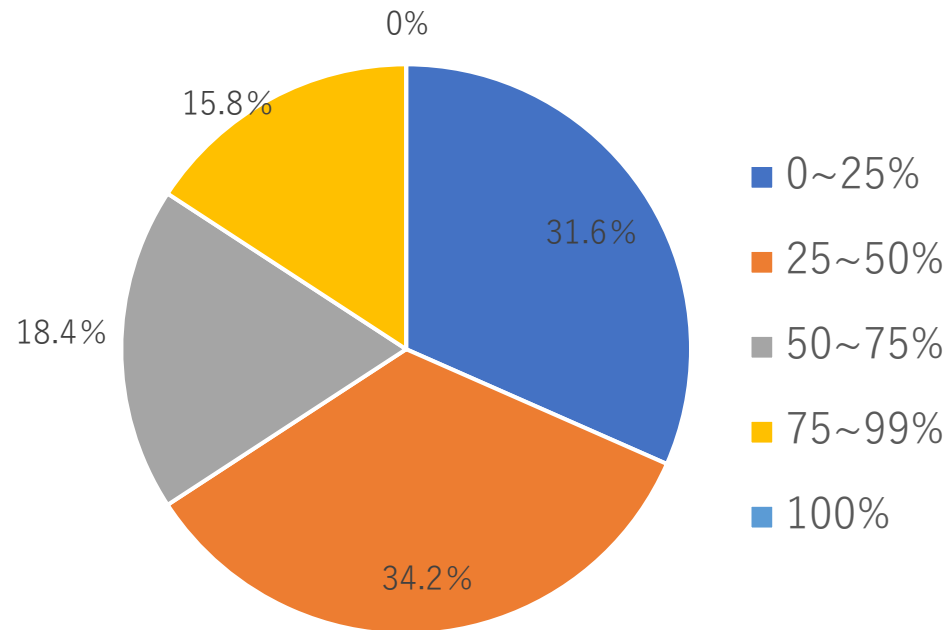
令和5年
【次年度理事研修】アンケート結果



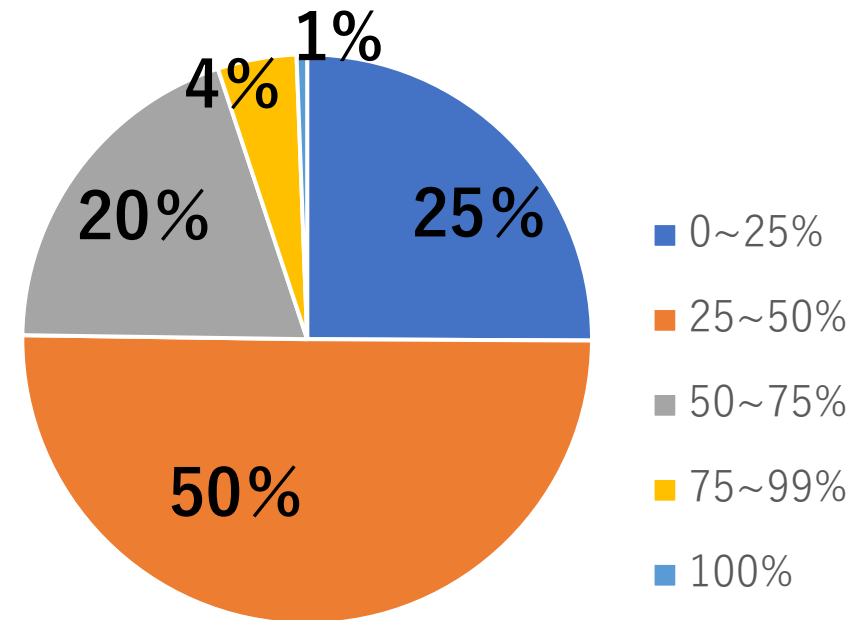
令和5年
【次年度会長研修会】アンケート結果

令和5年【理念形成】アンケート結果

Q8.単会における「綱領」「指針」の浸透率を教えてください。



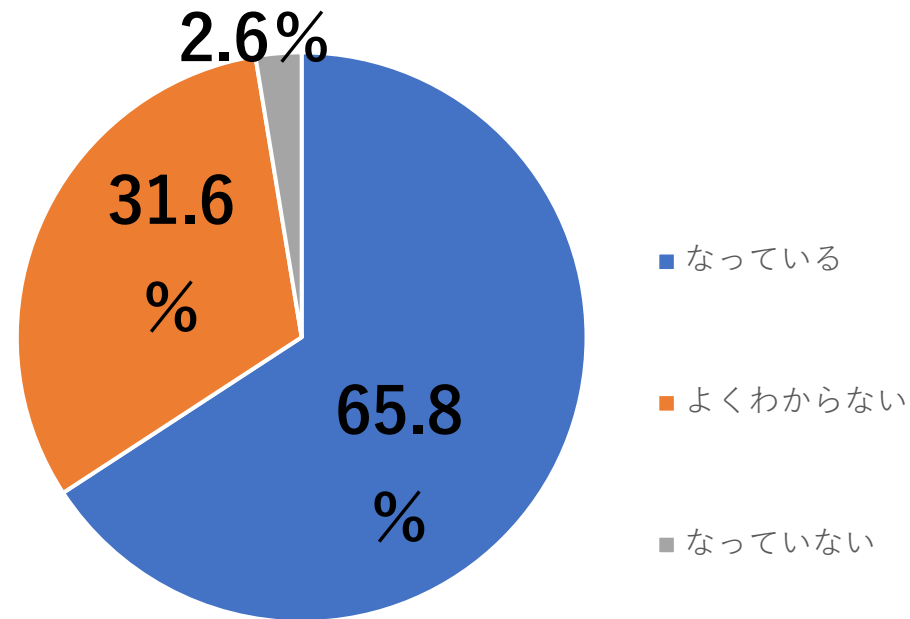
令和5年
【次年度理事研修】アンケート結果



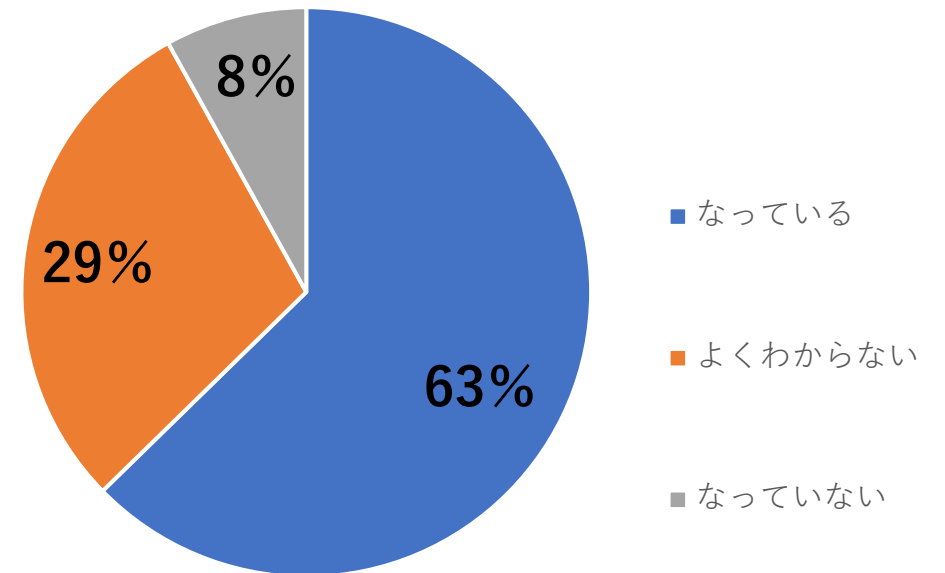
令和5年
【次年度会長研修会】アンケート結果

令和5年【理念形成】アンケート結果

Q9. 「綱領・指針」はYEG活動の明確な道しるべとなっていますか？



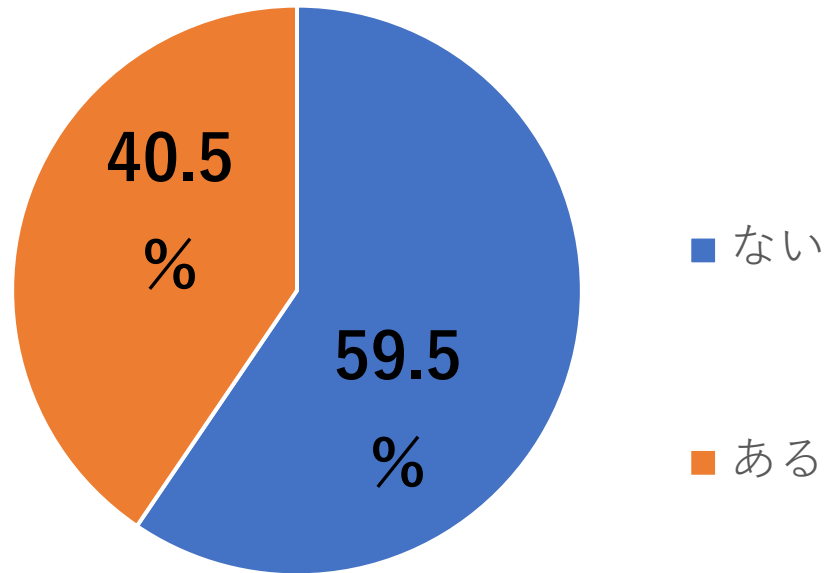
令和5年
【次年度理事研修】アンケート結果



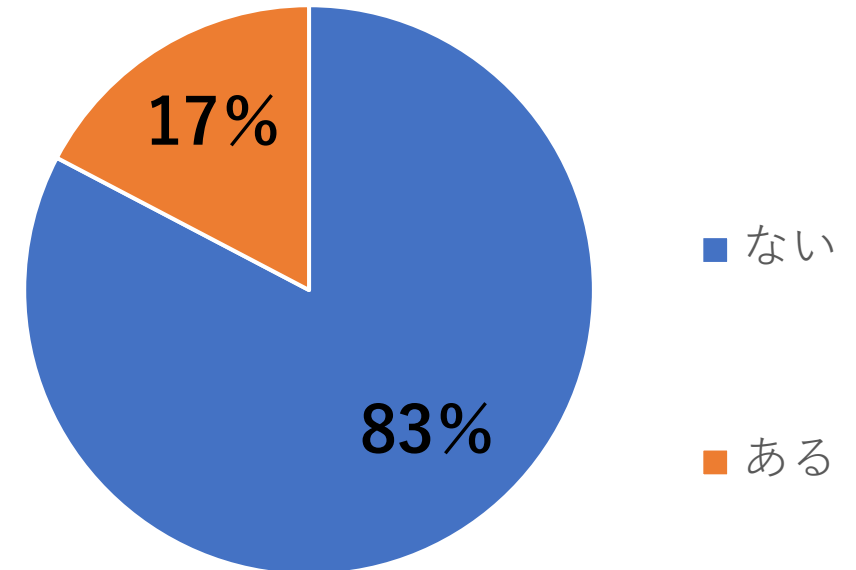
令和5年
【次年度会長研修会】アンケート結果

令和5年【理念形成】アンケート結果

Q11.入会してから「綱領・指針」の説明を受ける機会がありましたか？



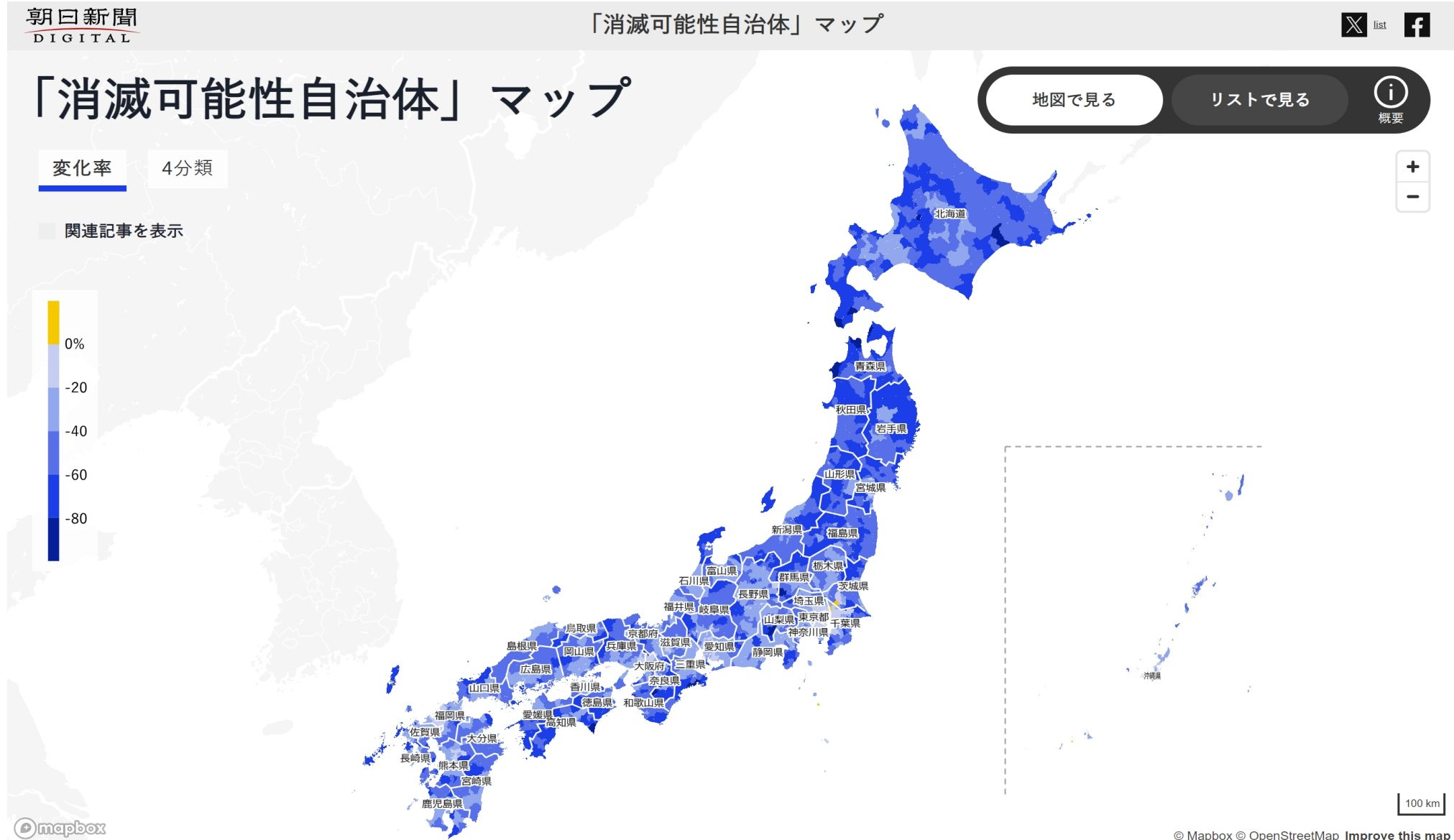
令和5年
【次年度理事研修】アンケート結果



令和5年
【次年度会長研修会】アンケート結果

消滅可能性自治体マップ

2050年の日本の姿を予測した人口減少マップと消滅可能性自治体の一覧です。
「人口戦略会議」が2024年4月に発表した自治体の持続可能性に関する分析にもとづいています。



参考資料 2

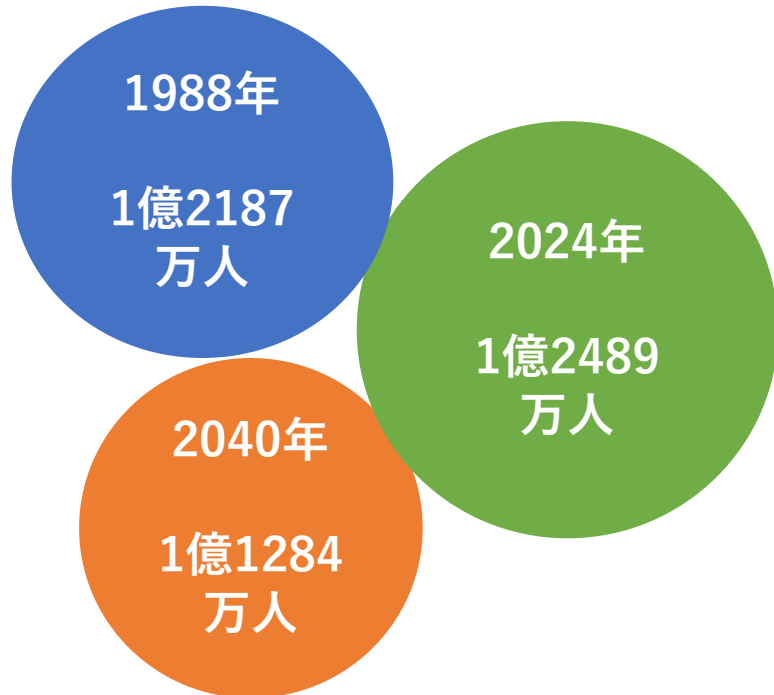
全国人口推移・出生数について

◆全国の人口推移

綱領指針が策定された1988年の全国人口は1億2187万人。
2024年現在、全国的に見れば人口は微増しているが、地方に至っては減少傾向であり、現状まま進むと、2040年には全国的にも人口は大幅に減少に傾くことが確実となっております。

単純計算で、1年で75万人ずつ減少していきます。

全国人口推移

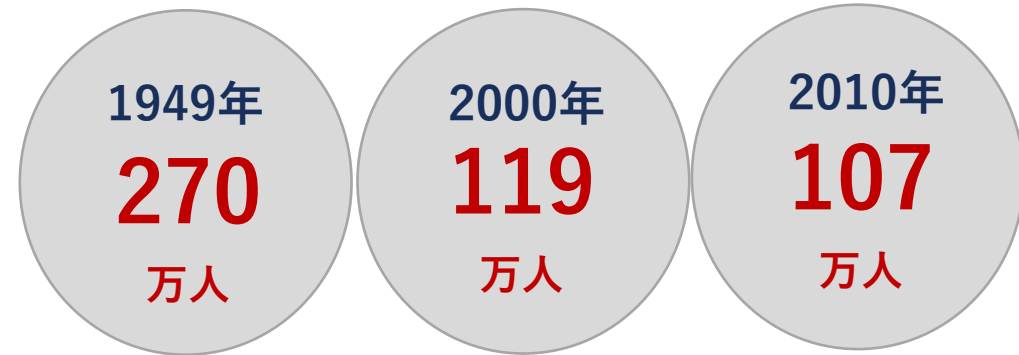


◆出生数

最高年は1949年(昭24) 2,7万人
その後徐々に減少し、2000年は119万人、2010年は107万人と着実に減少しています。
そして2023年の出生数は72万人台に突入しました。

これは統計開始以来初めてのことであり、今後さらに減少する予測が立てられています。
つまり、人口減少は加速度的に進行していきます。

出生数



2023年 72万人

(統計開始以来過去最小を更新)

- ✓ 第2回全国大会高岡大会「大会宣言」 1982年
- ✓ 第12回全国大会山形大会「山形宣言」 1992年
- ✓ 第25回全国大会愛知大会「愛知宣言」 2005年
- ✓ 第26回全国大会大分大会「大分宣言」 2006年
- ✓ 第24回全国会長研修会いしかわ加賀会議「加賀宣言」 2007年
- ✓ 第28回全国大会びわ湖大津大会「商工会議所青年部 環境行動宣言」 2008年
- ✓ 第32回全国大会おきなわ那覇大会「YEG宣言」 2013年
- ✓ 第40回全国大会しあわせ福井さばえ大会「襷宣言 2020」 2021年
- ✓ 第41回全国大会SETOの都 香川高松大会「サスティナブル宣言2021」 2022年
- ✓ 第43回全国大会加賀能登の國いしかわ小松大会「サスティナブル宣言」 2024年

◆第2回全国大会高岡大会「大会宣言」

これを契機に全国青年経済人の連絡、連携を一層緊密にし、次代の地域経済の担い手として、また新しい時代のまちづくりのリーダーとなるよう、研鑽を積むとともに、われわれ青年部の活動を通じて商工会議所の組織・運営の強化に寄与する

◆第12回全国大会 山形大会「山形宣言」

私はYEGとして、夢に挑む。

私たちはYEGとして、地域を愛する。

すべてのYEGは、連帯の証となる。

◆第25回全国大会 愛知大会「愛知宣言」

私たち、日本の商工会議所青年部（YEG）会員ならびにアジア・大洋州の若手経済人は、国際博覧会「愛・地球博」と同時開催された第25回全国大会愛知大会での議論を通じ、それぞれの地域での企業家精神の発揚により、地域の経済的な発展を通して社会に貢献していくことが自らに課せられた共通の役割であることを確認した。さらに、この機会を捉え、今後、YEGは、互いの地域の経済的な発展に寄与することを目的に、アジア・大洋州各地のYEG的な組織あるいは活動との連携と協力の可能性を求めて、その一步を踏み出すこととする。

◆第26回全国大会 大分大会「大分宣言」

我々は、日本商工会議所に所属する400単位会議所定款に青年部が明記・位置づけされること、また各単位会議所常議員会に青年部代表者が常議員会構成者として出席して意見を述べるができるよう、各単位会議所にお願ひし、それをゆるぎなく推進していくことをここに宣言いたします。

◆第24回全国会長研修会 いしかわ加賀会議 「いしかわ加賀宣言」

私たちYEGは、地域再生、日本再生のために、自己研鑽に励み、すべてのYEGが、それぞれの地域の特性を生かし、経済振興策を含めた建議・提言活動を行い、その取り組みを発信していくことを目指す。

◆第28回全国大会 びわ湖大津大会 「商工会議所青年部 環境行動宣言」

- 一、われわれは、次代を先導する青年経済人としての自覚を持って「低炭素経営」を実践する。
- 一、われわれは、地域に生きる者の責務として「低炭素社会」の実現を目指す。

◆第32回全国大会 おきなわ那覇大会 「YEG宣言」

「私たちYEGは、日本（にっぽん）を愛する」
私はYEGとして、夢に挑む。
私たちはYEGとして、地域を愛し、日本（にっぽん）を愛する。
すべてのYEGは、連帯の証となる。

◆第40回全国大会 しあわせ福井さばえ大会 「櫛宣言 2020」

我々は確実な一步を積み重ねる
Y E Gの誇りと絆を櫛に込めて
希望溢れる未来へ大輪を結ぶ

◆第41回全国大会 SETOの都 香川高松大会 「サスティナブル宣言2021」

日本YEGは、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進し、常に新しい社会を見据え未来をかたちづくる活動を実践する。また、全国のYEGメンバーが自社で実践できる情報を提供し、YEGメンバーの持続的な成長に貢献をする。

◆第43回全国大会 加賀能登の國 いしかわ小松大会 「サスティナブル宣言」

日本YEGは、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進し、常に新しい社会を見据え未来をかたちづくる活動を実践する。また、全国のYEGメンバーが自社で実践できる情報を提供し、YEGメンバーの持続的な成長に貢献をする。

※「サスティナブル宣言2021」を時代の変遷に合わせて内容を更新した

商工会議所青年部

綱 領

商工会議所青年部は
地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い
次代への先導者としての責任を自覚し
地域の経済的発展の支えとなり
新しい文化的創造をもつて
豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指 針

われわれ青年部は

- 一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
- 一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
- 一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫 勇気と情熱を傾けよう
- 一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって歩を進めよう
- 一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ 国の
礎となろう

青年部「綱領」「指針」を策定

● 設定理由

昭和49年には商工会議所青年部が新設され、全国青年部に拡大された。そして、商連が結成された。このことについて、各商連青年部でいよいよ活動が盛んに行われる。この活動は、創生期から行進期を経て、いまや活動の盛んな時期に達している。この活動は、地域の発展に大きく貢献している。この活動は、地域の発展に大きく貢献している。この活動は、地域の発展に大きく貢献している。

● 青年部活動の基本的な考え方

私たちが青年部の目指すものは、豊かな地域づくりである。これは、地域の豊かな発展が、わが国の明るい将来を導くという基本的な認識に立つものであり、地域社会の健全な発展を図る商工会議所の活動の一翼を担うことにならなければならない。地域の経済的発展が豊かな地域づくりの根源であることは言を待たない。そして、その原点は私たちの企業、商いを発展させることにある。

● 青年部活動の基本的な考え方

私たちが青年部の目指すものは、豊かな地域づくりである。これは、地域の豊かな発展が、わが国の明るい将来を導くという基本的な認識に立つものであり、地域社会の健全な発展を図る商工会議所の活動の一翼を担うことにならなければならない。地域の経済的発展が豊かな地域づくりの根源であることは言を待たない。そして、その原点は私たちの企業、商いを発展させることにある。

刻々と変化する国際情勢の中で、今やわが企業、商いは安泰といつたことは考えられない。何らかの形で、直接的に、間接的にその影響を受けている。グローバルな物の見方、考え方がさらに要求されると同時に、変化に対応できる判断力、決断力が企業の大小にかかわらず、経済人として特に備えなければならない資質となることは言うまでもなからう。

私たちは次代を担う青年経済人として、互いに切磋琢磨しつつ、志を同じくする者の友情を高め、自己研鑽を行い、ひいては地域社会における先導者としての資質向上を図る必要がある。「和而不同（和して同せず）」という言葉があるが、これが少なくとも青年部メンバーのあるべき姿であろう。飲み食いした席で生まれた、なれない仲良し集団の中からはなかなか新しい発想や行動は生まれない。真面目な議論の後の爽やかな一杯こそ、私たちの求めているものではないだろうか。

住みよい地域づくりとは、人々が安心して生活できる環境の実現と言える。安心とは、豊かさ、便利さ、快適さ、自然といった心の満足度に置き換えることができる。このことは、一方で経済的な豊かさに支えられることが必要であろうし、他方では文化的側面の充実が求められる。

私たちは、この文化的側面にも深い関わりをもつ必要がある。地域特性は少なからずこの文化的側面から見られるものである。端的な表現をすれば、地域づくりは、地域の文化的特性の継承とともに、新しい文化的創造であると言える。祭りやイベントも文化であり、美しい商店街をつくり活性化

青年部活動への提言

各地青年部へのアンケート調査結果から

各地青年部へのアンケート調査は、さまざまな問題を提起してくれている。そして、各地青年部それぞれに活動に大きな格差があることも事実である。設立からの歴史は長い活動はそうでもないところ、日は浅くともパリパリ活動しているところ、何をしようのか試行錯誤を繰り返しているところ、正にさまざまである。青年部創生期の苦しみなのであろうか。大切なことは、意欲である。青年部はこのままではいけない。何

とかなければ、この意欲は、すべてのアンケートの中で読みとることができた。この意欲がありさえすれば、青年部の将来は明るい。と確信している。活動の積み重ねが歴史をつくり、伝統を築く。その過程で、しつかりとした骨組みがつくりあげられていく。青年部メンバーの諸兄が、このアンケート結果の数字の裏を読み取り、自分の青年部がどこに位置づけられるのか。みんなが何を考え、悩んでいるのかを知り、次へのステップの資料としていただければ幸いである。

① 組織としての形をつくらう。

次に、「これからの青年部を考える」に当たり、ポイントになるべき点を問題提起として取り上げてみた。

青年部組織の名称、役職名、会費資格と年齢制限、委員会の設置の有無と名称、これらの組織における統一性が、ここ数年来かましく言われているにもかかわらず、なかなか実現されない。

各地青年部の設立や活動事情の中で統合化できないものがあろうと思われ、できるだけ早く全国統一されるべきだが、今後の青年部の運営が円滑化される糸口であることは言うまでもない。